はじめに

SDGs（持続可能な開発目標）の理念の「誰一人取り残さない」はジェンダー平等に依拠した目標です。この目標を達成するには、デジタル分野に女性と少女が平等に参加することが不可欠です。しかしながら、デジタル技術へのアクセスにおけるジェンダー格差が拡大していることが指摘されています。このようなデジタル面でのジェンダー格差を背景に、2023年の国連女性の地位委員会で「ジェンダー平等と全ての女性と女児のエンパワーメントの達成のためのイノベーション、技術変革、デジタル時代の教育」が優先テーマに取り上げられました。デジタル化の進展に伴って、国境を越えた規制枠組みの必要性や、ジェンダー平等との関係について議論が進展しています。

日常生活において、デジタル技術の進歩は私たちの暮らしや社会の在り方を根本から変えつつあります。デジタル化によって新たに生じるジェンダー問題は何か、最新のデジタル技術がジェンダー平等に寄与するために何ができるのか、検討課題も山積しています。

SNS上での誹謗中傷やハラスメント、デジタル空間やAIにおけるジェンダーバイアスなど、見過ごすことが許されない問題が提起される一方、デジタルスキルは業務の合理化・効率化による収益や利便性の向上、女性の就業促進など多くの可能性にもつながっています。

『NWEC実践研究』14号では、さらなる技術革新が予想されるなか、「デジタル技術とジェンダー平等」をテーマに、デジタル化がジェンダー平等に及ぼす負の側面を踏まえたうえで、デジタル変容とジェンダー平等推進の両立の可能性について探るべく、国連や途上国を含む国際的な議論や実践、国内の企業や男女共同参画センター、女性団体等による取組と、幅広い報告を掲載しています。

NWECでは、デジタル時代におけるジェンダー平等の実現に向けて事業のさらなる充実を図ってまいります。引き続き温かいご指導をいただけますよう、お願いいたします。

独立行政法人国立女性教育会館　理事長　**萩原なつ子**